

湯免開発と

共に発展

湯免自治会

黄金の稲穂が波打つ豊かな田園地帯の一角に湧き出ていたのが湯免温泉です。泉源近くに祀られている住吉大明神は泉源の守護神として大正二年に建立されたものであり、毎年四月には自治会の家族全員で親睦行事としてお祭りを行っています。

この温泉は「できもの等」に良く利くことから、遠くからも人が訪れ、温泉水を汲み持ち帰っていました。そこで、町行政の首脳がこの温泉に着目し、開発にのり出したのが昭和二十九年でした。昭和二十九年といえ



自治会の窓

ば、第二次世界大戦敗戦の惨状からまだ国全体が立直れず、復興の途上であつたはず。開発に必要な物資不足はもとより、技術や作業機械等も現在のよう

高度なものはなく、当時の決断はなみなみならぬものではなかつたかと思われま

泉源掘削は数回実施され、その後、昭和三十三年に温泉施設竣工、昭和三十六年に別館が竣工、昭和四十年に温泉プール竣工、昭和四十一年に温泉公園・老人福祉センター・簡易水道敷設工事竣工等の一連の開発が終了しました。この間実に十三年間の歳月を費やし、当時としては膨大な経費であつたでしょう。(湯免公園の石碑による)

近年、町行政によって「福祉と教養」を柱に湯免温泉の再開発が行われ、香月美術館やふれあいセンターなどの施設が建設されました。特に香月美術館にはすばらしい絵画が所蔵されており、全国的に知名度も高く、有名人も来館されています。また、ふれあいセンターには天皇皇后両陛下が御行幸啓されており、他町村の温泉と比較して客の評判も良いようです。

明るく住みよい自治会に！

向山自治会

三隅川の河口から二番目にあつたように、湯免は町行政の開発と共に発展してきた自治会ですが、当初は中村自治会に含まれていました。しかし、世帯数の増加に伴い昭和五十六年に分離・独立して十三年目の自治会です。湯免に居住する全世帯数は、福祉学校の寮生を含めると約百八十世帯にもなりますが、会員数は六十数世帯です。これで自治会運営を全て賄っているのですから大変な状況です。何らかの改善策を立てなければと試行錯誤の毎日です。

地域の南側を除いて三方を山に囲まれており、昔は狐が多かつたようで「豊原の藜原に火事がある」と向山の狐が仕返しをした」のだとの言い伝えもあるようです。現在では狐に替って狸が勢力を伸ばしているらしく、その姿をしばしば見掛けます。当自治会の最近のトピックスは何といつても集会所の建設でしょう。昭和五十二年以来使用してきた約三十坪のプレハブの集会所では急増する人口に対処できず集会所を新たに建設することとなり住民の一致協力のもと平成六年七月に竣工にこぎつけることができました。敷地面積約二百坪、建坪約四十八坪の堂々たる集会所です。住民のコミュニケーションの場として大いに活用されています。

さて、当自治会が自慢できるもののひとつに空缶や古紙回収の際の分別がキチンと行われて



新築になった向山集会所

いるということがあります。ご他間にもれず最初の頃は目を覆うものがありました。環境衛生委員さんが根気よく指導、周知を繰返したことで、新集会所建設を機に住民も心機一転？住みよい環境づくりに結集したことが理由であろうかと思ひます。悩みとしては子供達の遊び場となる場所が無いこと、旧くからある集落のように住民の求心力となるような伝統的行事をもたないことなどありますが次の世代のためにも焦らずに一つずつ解決してゆきたいと考えております。

最後に向山自治会の合言葉を、「決まったこと、決められたことは皆で守って明るく住みよい向山にしよう」